



子どもは、地域を映す鏡

「川越・地域子どもサポート推進事業」が市内全地区で始まります

平成十六年度から小中学生を対象に、大東地区と霞ヶ関北地区で始まった「川越・地域子どもサポート推進事業」。ことしからは全市をあげて、この事業が始まります。

この事業は、「地域の子どもたちは地域で育てる」という共通認識の下、地域が一体となって総合的・効果的に子どもたちを育てていこうとするものです。問い合わせ：生涯学習課生涯学習推進係・TEL内線2842

子育ての問題点

市民の皆さんは、近所に住んでいる方の名前がわかりますか？ 最近では地域内でのつきあいが少なくなつて、隣近所に住んでいるのが誰かわからないという方もいるのではないのでしょうか。

子どもを育てる環境も、時代と共に変化してきました。生活環境の変化や子育てに対する考え方の多様化、核家族化が進んだ現在。子育て中に発生するさまざまな事を、家庭だけで解決するのは難しくなっています。

一方で、子どもたちの自然体験・社会体験などが不足しています。その主な原因は、

家庭や地域社会で多くの大人と交流し、ふれあう機会が減少しているためといわれています。

子どもたちを取り巻く状況を少しでも改善するためには、地域の皆さんが子どもを温かい目で見守り、地域で遊んだり勉強したりできる環境を整えることが必要です。

モデル事業の取り組み

これらの問題に取り組むために、市では、平成十五年度



中央北地区の「あるくあるく探検隊」では、自分たちでせんべいを焼きました

昨年度のモデル事業4地区の取り組み

霞ヶ関北地区では、地域の歴史を紹介する子ども情報誌を作成



大東地区で行われた、子どもの食生活に関する講演会

南古谷地区では、田植えを体験





地域子どもサポート委員会

学校・公民館
支援部会

地域啓発・広報
活動部会

地域の特色を生かした
事業部会

地域の人材発掘と
その育成ならびに
人材バンクの設置

啓発のために講演
会を開催し、地域
情報誌を発行

子どもを対象に、
地域の特色を生か
した事業を実施

から子どもサポート事業の検討を開始。同十六年度に市民の代表で構成する川越市地域子どもサポート本部を設置し、大東地区と霞ヶ関北地区でモデル事業に取り組みました。このモデル事業では、サポート委員会を組織し、その中に左図の三つの部会を設置して活動しました。

モデル事業の活動を踏まえて、同十六年度末に「子どもサポート基本方針」を作成しました。この基本方針の目標

は、①子どもたちの生きる力をはぐくむためのサポートの推進②子どもを家庭・学校・社会教育施設・地域社会のネットワークの中で育てることです。目標の実現に向けて、昨年度は南古谷地区と中央北地区を加えた四地区で、モデル事業を行いました。

大東地区

「子どもの食生活について考える」をテーマに、栄養士による地域啓発講演会を実施。大東地区にある二つの公民館と三つの小学校を会場に「ミニフェスティバル」を実施しました。ボランティア団体が、昔遊びの道具作りなど数多くの催しを行い、合わせて四百人を超える子どもたちが参加しました。また、この催しでは、中学生もボランティアとして活躍しました。

霞ヶ関北地区

子どもたちや地域の皆さんに霞ヶ関の歴史を知ってもらうための情報誌を発行。「霞ヶ関北地区子どもフェスティバル」では、ボランティアによる各種体験教室や、中学生による手作り絵本の読み聞かせなどが行われました。また、

東京国際大学の協力による、英語体験講座が行われました。参加した子どもたちは、外国人教師やボランティアの大学生と交流を深めました。

南古谷地区

地域の特色を生かして、田植え・稲刈り体験を実施。中学校を会場に「子ども文化祭」を実施し、ボランティア団体ももちつきや福祉体験講座などの催しを行いました。ほかにも、ホテル観覧会などを開催。また、中学生による「南古谷地区ウインドオーケストラ」を、東邦音楽大学の協力により結成しました。

中央北地区

歴史的な名所・旧跡に囲まれた地域の特色を生かし「あらくあるく探検隊」を実施。ボランティアが見守る中、親子や友達どうしで地域内を歩いて回りました。本丸御殿や時の鐘などでは、クイズや体験学習を行いました。また、高校の文化祭を体験することで、高校生との交流も行われました。

これらの活動を通じて、モデル地区では地域の皆さんに子どもサポート事業について